2020年3月29日付、プロパンブタンニュース紙面より抜粋

能美市

総合体育館にＧＨＰ

電源自立型 20馬力13台 災害に強いＬＰガス仕様

能美市（井出敏朗市長）は市内の物見山総合体育館の空調にＬＰガス仕様のＧＨＰを採用した。すべてダイキン工業製で、電源自立型20馬力が13台（合計２６０馬力）。バルク（９８５㌔㌘）３基を設置し、ＬＰガスは大城エネルギー（本社・能美市、西本和喜夫社長）が供給する。石川県でＬＰガス仕様ＧＨＰが体育館に導入されるのは今回が初の事例で、改修工事で休館していた同体育館の再開日４月１日から本稼働する。

室内機は40台。バレーボールやバスケットボールなどが行えるアリーナ（１４７０平方㍍）、柔剣道場（３００平方㍍弱）、エントランス、廊下などの冷暖房を行う。

同体育館は能美市が運営する施設で、１９９２年に完成。今回屋根や外壁の塗装、照明のＬＥＤ化、全トイレの洋式化といった一部の改修工事に合わせてＧＨＰを新規導入した。

デマンド抑制による電力のランニングコスト削減と緊急時の指定避難所としての機能を維持するために採用。東日本大震災の教訓から災害時に電源が失われた場合や避難生活が長期化した場合も安定的に電力の使用や空調の利用ができ、避難者が安心して退避生活を送ることができるように、災害に強いＬＰガス仕様の電源自立型ＧＨＰの導入を決めた。今月23日には井出市長が改修された体育館を視察。ＧＨＰの試運転も行われ、空調の効き具合など稼働状況を確認した。

今回同市がＧＨＰを採用した経緯には大城エネルギーの行政への地道な広報活動があった。設備を導入することで何が可能になるのかなど、機会があるごとに市長をはじめ、市の関係者にＬＰガスの良さを伝えてきた。

また、同市へ働きかけ、２０１３～15年に市内４カ所に災害対応バルクを設置。13年に根上地区の浜小学校に５００㌔㌘、15年に同地区の能美市立病院に１㌧、寺井地区の健康福祉センターサンテに３００㌔㌘、辰口地区の辰口健康福祉センターに１㌧を取り付けた。05年の能美市発足で合併した旧根上町、旧寺井町、旧辰口町の各拠点に災害対応バルクを置くことで広域エリアでの防災力強化に努めてきた。

こうした長年にわたる働きかけと地元への貢献が市長の心を動かし、同体育館の改修を機にＬＰガス仕様のＧＨＰを導入する方向へ向かわせた。

同体育館は海抜40㍍地点に立地する。緊急避難時には館内各所に１２２３人の収容（新型コロナ感染症拡大前段階での計画）ができると見込んでいる。

能美市教育委員会スポーツ振興課では今後、市民の快適な体育館活用に貢献するＧＨＰを効果的に運用することを考えている。

物見山総合体育館

電源自立型ＧＨＰを13台設置